



Q1 どのような授業をしていますか？

ことばを聞く・話す・読む・書くを楽しみながら学びます。口を動かすゲームをしたり、鏡や舌圧子を使って発音の練習をしたりと、様々なことを行います。「ことばの教室」にマニュアルはありません。一人ひとりの状況を見ながら授業を進めています。

Q2 対象者は誰ですか？

小学校1年生から6年生まで、言葉に関して不安を抱える児童が利用できます。開成小学校の児童だけではなく、開成南小学校の児童も利用できます。
※利用には、教育委員会での手続きが必要です。
※特別支援学級の児童は対象には含まれません。

Q3 いつ授業をしていますか？

週に1~2回、1回あたり45~90分の授業をしています。「ことばの教室」を受けている時間は、学校教育の一部とされ、欠席や遅刻、早退の扱いにはなりません。



馬場 希代子先生

取材を終えて

今回の取材を通し、『ことばの教室』は、子どもだけではなく、保護者にとっても不安を解消し、安心できる場所であると感じました。一人ひとりを真剣に思い、必要なサポートをする仕組みが町内の学校にあるというのは、素晴らしいことですね。

まちづくり情報特派員 武藤 一美

『ことばの教室』ってどんなところ？

企画政策課 ☎84-0312

開成小学校には、『ことばの教室』という子どもたちや保護者にとって、とても心強い教室があるのをご存じですか？

一体どのような教室なのか、どのようなことが行われているのか、調べてきました！



**お子さんのことばが
気になる保護者の方へ**
『ことばの教室』では、子どもたちの様子を毎日見ている学級担任と密に連携して子どもたちをサポートしています。お子さんのことばに関して気になることがある場合は、まず、学級担任にご相談ください。



加藤 彩香先生

子どもたちの気持ちを第一に考えて、たくさんの笑顔で子どもたちに接していきたいです。よろしくお願いします！

初めまして！
10月に着任しました！

得意なことをいかに

— 子どもの想い —

私は、話すことが好きでも、頭でずぐに言葉がまとまらず、口ごもってしまったら、何回も言い直したり、言葉を伸ばしてしまいます。そのせいか、話しかけてくれた人も、返事に困ったような顔をしていたのを覚えてます。

授業で作文を書いた時に、全くと言っていいほど言葉がまとまれない時に、先生から「パソコンが得意なのだから、キーボードで打ってみたら？」と勧められました。すると、流れるように文字が出てきて、言葉をまとめることができました。

この経験を通して、口頭ではうまく言えないことも、得意なパソコンでは、話しているように言葉が出てきて、うまくコミュニケーションを取れています。

(10代・男性)

親子で向き合う

— 発達と向き合う親子の想い —

子どものチカラを信じて

— 親の想い —

私の子どもは小学2年生の時、発達障がいがありました。発達障がいがあるとわかった。うが、目指すべきは豊かな人生です。自己肯定感を失わず、こまめに褒めてくれた我が子を誇るのだからと、不安でいっぱいになりました。

そうは言っても、日々、子どもは成長していきます。ありとあらゆる本を読み、児童相談所などにも行きました。我が家の子育ての基本は、「自分で自分を認められる人にならしてほしい」という想いから、受け止め、何をどうするべきか自己肯定感を育てることでした。悩みながら育ち、頭の中でキーボードを打つことが、上手に話

が大好き。話すことが苦手でも、いつもニコニコしていました。親でしつかりと発達と向き合う勇気が、豊かな人生の第一歩です。本当の意味で「みんなだちがたくさん増え、今、充実した日々を送っています。」

(50代・保護者)

一人ひとりの成長を見守る町を目指して

十人十色

編集後記

今回の特集では、様々な立場の方が、一人ひとりの子どもたちの発達を支援する様子やその保護者に寄り添うための活動を紹介しました。誰にも個性があり、誰一人同じ人はいません。得意なこと、苦手なこと、好きなこと、きらいなことがあり、その中には、得意・不得意の凸凹が大きい人もいます。

大切なことは、その人がどんなことができ、何が苦手なのか、どんな魅力があるのかといった、「その人」に目を向けることです。誰しもそれぞれ違う「色」を持ち、違うからこそ豊かで魅力ある社会になっていくのではないのでしょうか。今回の特集では、主に子どもたちの発達にスポットライトを当ててきました。町では、子どもだけでなく、ライフステージを通して、一人ひとりに寄り添い、誰もが安心して、地域で自立した生活ができるよう、取り組んでいきます。

このコーナーでは、町内の気になるあ場所・あの人をまちづくり情報特派員が取材します。気になる情報をお寄せください！